

⑱	<p>に行くとはどかった。保健室に寝ていても眠れなかった。たぶん自分に問題があった……………幼かったというか……………友だちになじめなかった。拒否しちゃったというか……………」と話してくれた。</p> <p>※「もう、来所しなくてもいいようだね」というと、うなずきながら、「来週は、母と一緒に来ます」と答えた。</p> <p>※ Y-G性格検査実施</p>	<p>ろくほど変容した。</p>
⑲	<p>○4月からの復学の抱負についてきく。</p> <p>・「成績にあまりとらわれず、今年休学して得た人生経験を生かした幅の広い人間として、生活していく」ということである。</p>	<p>○子供を通して、両親の養育の姿勢も大きく変容したことが推察できる。</p> <p>※この日をもって、相談を終了することにした。</p>

(8) 考察

- ① 急テンポに効果があがった理由として、休学届を出したことにより、情緒が安定したこと。
- ② 両親の努力により、社会的技術や態度の訓練の場として、宗教団体(R会)やテニスクラブが与えられたこと。
- ③ 休学中の生活を、本人を信じて「まかせ」養育態度をとってきたことから、順調に自我が成長し、対人不安や孤独傾向が解消されたこと。などが考えられる。初回来所時に実施したY-G性格と、不安傾向診断検査(GAT)をカウンセリング終了時に実施したものと比較したのが